

2024年8月8日

成果報告書

報告者：藁谷郁美 総合政策学部教授

活動名：研究会「ことばと文化」最終課題発表会

活動期間：2024年7月22日～23日

活動場所：神奈川県三浦市南下浦町上宮田 3231 マホロバマインズ三浦 研修所

【活動概要】本合宿は、藁谷郁美研究会「ことばと文化」の参加者による、最終課題発表会実施を目的に、授業期間終了直後の2024年7月22日～23日の期間におこなわれた。合宿形式をとることで、キャンパス内の授業枠内で実施する形とは異なり、時間的制約を受けることなく、質疑応答および問題点の共有にじゅうぶんな時間をかけることが可能となった。同時に、この時期に各自が他者からのコメントを得ることで、合宿後に提出する論文形式の最終課題をより質の高いものへとリバイスする機会となったと考える。

1. 全体の発表スケジュールおよび

図1は本合宿の2日間のスケジュールの一部を示すものである。第一日目は13時-19時まで、第二日目は9:15-12時まで発表と質疑応答を実施した。パネルディスカッションの形式で発表者が常時2-3名となるように組み、司会者とコメンテーターにそれぞれのセッションを委任した。特にコメンテーターは発表後のディスカッションが問題点の核心から外れないように全体のQ&Aの流れを決める重要な役割を担った。なお、発表資料はクラウド上に共有し（図2）、他者の発表資料を自由に閲覧できる環境を設定した。

時間	発表者	司会	コメンテーター
13:55	小田島真由	津田りさ子	バーズエマ
14:05	宮崎康庸		
14:15	質疑応答・ディスカッション		
14:35	バーズエマ	栗原諒	ペーカーマーク
14:50	質疑応答・ディスカッション		
15:00	竹筋菜々		
15:10	質疑応答・ディスカッション		
15:30	長谷川謙也	佐居明彦香	宮崎康庸
15:40	山本汰		
15:50	質疑応答・ディスカッション		
16:10	津田りさ子	長谷川謙也	赤羽空
16:25	安達明日斗		
16:45	茅梨暖		

時間	発表者	司会	コメンテーター
9:15	角谷恭太	伊波川彩名	
9:25	加藤優和	茅梨暖	
9:35	質疑応答・ディスカッション		
9:55	櫻庭望	山本汰	角谷恭太
10:05	安藤河		
10:15	質疑応答・ディスカッション		
10:35	栗原諒	安達明日斗	小田島真由
10:50	佐居明彦香		
11:00	質疑応答・ディスカッション		
11:10			
11:30			

図1 発表スケジュール

名前	オーナー	最終更新
7/22発表者	waragailab.s...	2024/07/17
7/23発表者	waragailab.s...	2024/07/17
[7/22午後更新] 最終発表スケジュール (7/22・合宿1...	waragailab.s...	2024/07/23
[7/23午後更新] 最終発表スケジュール (7/23・合宿2...	waragailab.s...	2024/07/23

図2 発表資料の共有

本研究会では学部1年生から大学院生まで共に研究会時間を共有するしくみを取る。そのことにより、研究経験が浅い学部生にとっては、自分たちよりも長い経験を持つ「先輩」の研究テーマや資料作成の形を参照できる環境に身を置くことができる状況は重要である。

なお、他者のコメント共有には、現場での直接的発言・質疑応答のほかに、サイバー空間上でのコメントシートを設定を通して網羅的に他の参加者からの意見を収集できるしくみをつくった（図3）。



図3 コメントの共有

2. 研究発表内容

参加者による発表テーマは全体の「ことばと文化」のもと、多様なテーマで発表とディスカッションがおこなわれた。テーマは学習教育、スポーツ報道、音楽、演劇、メディア報道等、



図4 発表とディスカッションの様子(1)

多岐に亘り、事例として「英語学習を目的とするテレビゲームの変遷と受容」「アスリートの報道におけるジェンダーギャップ」「文豪ストレウドッグスから見る原作と舞台作品の比較」「スポーツにおけるイップス」「現代のヒップホップ」「チェコにおけるテレビ番組コンテンツ」「地下アイドルについて」等、それぞれの視点から個人研究として発展させてきたもの

である。図4および5は、発表とディスカッションの様子を撮影したものである。

また、本合宿内では、各自の個人研究に紐づく聞き取り調査のためのプレ調査、質問項目づくりのためのアンケート調査等も個別におこなわれ、自発的な協働作業が見られた。普段の授業時間帯では実施が難しい研究活動が可能となったことは、本合宿が活動の場として機能したことにつながったと考える。



図5 発表とディスカッションの様子

3. おわりに

このたびは、合宿実施のために、貴重な補助をいただくことができましたこと、SFC学会に心より感謝申し上げます。使用した研修室の環境も良く、集中した協働研究活動を持つことができました。新学期からのさらなる活発な研究会活動に繋げていきたいと思えます。